



令和4年3月24日発行
第32号
二本松市農業委員会
電話 0243-55-5148(直通)

いぶき

▲案山子とポーズをとる子どもたち

東和地域布沢集落の棚田が「国の指定棚田地域」に認定されたのを記念して「里の恵みの感謝祭」と合わせて「布沢棚田の芸術祭」が昨年10月31日に開催されました。布沢集落の棚田は東和小学校の西側に位置し、面積は約8ヘクタールを有します。

布沢集落・布沢の環境を守る会代表菅野正寿さんが中心となり、布沢集落・布沢の環境を守る会、布沢天女の会が主催し、福島大学岩崎ゼミ（行政政策学類）・社会芸術チームから企画協力を得ました。

開催当日は案山子コンクール、陶芸体験、棚田の生き物観察写真展などに、地域の子どもたちや福島大学生をはじめ約100人の方々が訪れました。案山子は前日まで応募を募り、牛を引くおばあちゃん案山子、カップ案山子、チョコちゃん案山子など見ているだけで楽しく

布沢棚田の芸術祭で田んぼが賑わう



▲煙突をアート作品に

なる案山子ばかりでした。陶芸体験ではお皿や、カップ作りを子どもたちとお母さんが一緒に楽しみました。

代表の菅野正寿さんは「山の神、田の神、水の神や自然の恵みに感謝するのが秋祭りで、その祭りのときに山の神を案内する子どもが案山子だと云われています。棚田の芸術祭を通して農の果たす役割、里の恵みへの感謝、コミュニティや都市と農村の新しい関係づくりに取り組み、老若男女が集まる里山を作って行きたい。」と熱い思いを話してくださいました。

(遠藤康子委員)



▲賞状を掲げる安齋駅長
今までの取り組みが実を結びました

祝
企業組合さくらの郷
内閣総理大臣賞
農林水産大臣賞
ダブル受賞

岩代地域の道の駅さくらの郷を運営管理する企業組合さくらの郷が、農林水産省と日本農林漁業振興会が共催する令和3年度（第60回）農林水産祭で、内閣総理大臣賞（むらづくり部門）と豊かな村づくり全国表彰の農

林水産大臣賞をダブル受賞しました。企業組合さくらの郷は、農家の女性有志6名が、地元産の野菜等を小さな直売所で販売を始めたのがきっかけです。その後規模を拡大しながら、地域の耕



▲地元産の野菜がズラリと並びます

作放棄地でのソバの栽培、地域交流イベントの開催、郷土食の伝承、六次化商品の開発などに取り組み、また、女性の活躍の場となっていることなどが評価されて今回の受賞となりました。近年、道の駅では年間10万人に迫る来場者数を記録しており、直売所は地物農産物から日用品まで数多く取り揃えています。一番の売れ筋はごんぼコロッケで年間2万2千個の販売があります。農産物も好評で、安心安全な商品を提供するために、農薬の適正使用の指導やモニタリング栽培管理表の提出等を実施しています。また、夏は新小麦祭や盆花



(右) 香り豊かな一番人気のごんぼコロッケ
(左) 地元野菜を使ったスイーツも人気

市、秋は収穫祭や新そば祭りといった季節に応じた各種イベントを開催しており、地域の活性化に一役かっています。道の駅駅長の安齋正人さんは「組合員の拡大と合わせ、後継者の育成や地元の大学生・高校生と共に、地域の課題解決や地域づくりについて考える活動をしています。地域の高齢化が進み買い物弱者も出てくると予想されるので、地域にとってなくてはならない施設であり続けたいと思います。」と今後の展望を話してくださいました。

(大内和長委員)

これからも地域の中心として益々の活躍が期待されます。

～県下農業委員会大会～

「集落話し合い運動」 農業・農村の持続的な発展に向けて

県農業会議の県下農業委員会大会は11月11日福島市のパルセ飯坂で開かれました。今回も新型コロナウイルス対策で約360人に人数を絞っての開催となりました。冒頭鈴木理会長が挨拶、その後各種表彰がおこなわれ、また、農業委員、農地利用最適化推進委員の永年勤続表彰（12年以上在任）があり、当農業委員会からは5名が表彰を受けました。

続いて、来賓の井出福島県副知事らが祝辞を述べ、記念講演では門間敏幸東京農業大学名誉



▲表彰審査報告を行う奥平副会長
(二本松市農業委員会会長)

教授が「農業・農村コミュニティの活性化と農業委員会への期待」と題して行われ参加者は真剣に聞き入っていました。最後に、東日本大震災などの災害からの復旧復興と防災減災対策の整備、担い手の育成と確保などの対策強化を政府に求めることや、農地利用の最適化などに向けた活動強化などの申し合わせについて決議し閉会となりました。

(武藤一夫委員)



▲ソーシャルディスタンスを保って参加

永年勤続表彰受賞者

- ・奥平 貢市委員（大平）
- ・武藤 栄利委員（木幡）
- ・松本 正典前委員（大平）
- ・三浦 喜周前委員（東新殿）
- ・菅野 保治前委員（針道）

情報誌コンクール いぶき 最優秀受賞

「福島県知事賞とダブル受賞」

第38回農業委員会情報誌コンクール表彰において、当農業委員会が発行する「いぶき第30号」が福島県農業会議会長賞最優秀賞並びに福島県知事賞をダブル受賞しました。これに伴い、全国コンクールに県代表として出品することとなりました。

松本太広報委員長から「この度は輝かしい最優秀賞と県知事賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。この榮譽は、私ども広報委員の力だけではなく、諸先輩方の支えや取材にご協力いただいた



▲賞状と盾を授与される
松本広報委員長(左)と佐藤副委員長(中央)

た地元農業関係者の皆さまの御陰と申しております。本当に心から感謝申し上げます。今後、皆様のお力添えを頂きながら、分かりやすい確かな農業情報の提供を目指して邁進してまいります。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。」と喜びの声をいただきました。今後、地域に根差した農業情報誌を発行していきたく思いますので、地元で話題となっている情報があれば、ぜひ農業委員会へお知らせくださいますようお願いいたします。

視 察 研 修

令和3年11月18日

地域の特産品・
ミネラル野菜と
道の駅の取り組み



▲西会津町の取り組みについて詳しく伺いました

まず初めに福島県の西北部、国道49号線やJR磐越西線、そして磐越自動車道が中心部を通り、交通の要所として新潟県と接し、万年雪をいただく飯豊連峰を望む人口約6千人の西会津町を訪れました。町の中心部にある「道の駅にしあいづ」で西会津町農林振興課の土田さんから、町で取り組む「ミネラル栽培事業」について話を伺いました。

きっかけは約20年前、他の地域に比べ住民が短命だった西会津町、脳血管疾患を含む生活習慣病が原因であると同時に、町の“土”もバランスが悪くなっていたことを知りました。そこで、「健康な身体は健康な食べ物から、健康な食べ物は健康な土から」を掲げ、ミネラル野菜の生産拡大を図っているとのことでした。ミネラルは、私たちの体を動かすために欠かすことのできない亜鉛やマンガンなどの微量要素です。本来あるべきミネラルを畑に補給し、栄養たっぷりの土で栽培した野菜をミネラル野菜としてブランド化を目指しています。生産者が共通の認識を持ち、安心して消費してもらうために町独自の栽培基準を設けています。また、パイプハウスのリース事業、土壌診断分析費用の補助を行うなど、基幹産業である農業の振興に積極的に取り組んでいるそうです。

道の駅の愛称は「よりっせ」、皆さんも西会津町を訪れたときはぜひ寄ってみてはいかがでしょうか。

西会津町で次に訪れた「西会津国際芸術村」は、町の中心部から北へ十数分、飯豊連峰を望む山あいにある廃校の木造校舎を活用しています。お話を伺ったのは、芸術村の企画運営を行っている矢部佳宏さん。

国内はもとより世界各地の都市設計や公園設計を行っていた矢部さんが生まれ育ったのは芸術村からさらに奥の集落です。県内はおろか、全国的にも高い高齢化、人口減少で過疎化が進み、消滅集落さえ現実化してきた西会津町の活性化を目指し奮闘しています。

矢部さんは里山の暮らしに共感する仲間とともに、町外そして世界から芸術を通して人材を呼び込んで、ギャラリィ、地域文化の育成の拠点として誘客による商店街の活性化、移住定住者の増加による地域再生に取り組んでいます。ニュースでも取り上げられ

地域再生に取り組む
芸術村の住民たち

話題になっている「ジョセササイズ(除雪でエクササイズ)」、これを考案したのも矢部さんたちだそうです。

今回お話を伺った西会津町の皆さん、町が今抱えている待ったなしの課題に取り組む、少しずつでも“実”になるよう頑張る熱意を感じ、私たちもこれからの二本松市の活性化に向け、“種”となるアイデアを得ることができた研修でした。(安齋浩一委員)



▲施設案内する矢部さん(写真右)ここではカフェ出店もできます



▲レトロな雰囲気が魅力的

農業委員会

一生幸せに暮らせる
集落を目指して

最後に、令和元年度豊かなむらづくり事業で農林水産大臣賞を受賞した「会津いなわしろ見祢集落結乃村」を視察しました。見祢集落は、猪苗代湖の北岸に面し、三方を山々に囲まれた、総世帯数40戸人口160名の集落で、南側には20〜30アール区画の水田57ヘクタールが広がる風光明媚な集落です。

しかし、都市への人口流出・農業者の高齢化が進み、将来に向けて地域農業の維持が困難になる前に取り組んだのが「中山間地域直接支払制度」です。集落農地・水路・農道等の維持活動や、集落住民の収穫祭などの取り組み等、集落協定を策定し活動しました。その後も何度も会合を重ね、「見祢営農組合」が設立されました。集落の全住民が参加し、集落内で生産した農産物等の販売、また都市との農山村交流・農家レストラン「結」の開店・新そば祭り等の活動を行っています。様々な活動への取り組みの

中で若い世代の役員により、これからの集落の進め方の指針となる「集落営農ビジョン」を策定し、これからの集落営農計画の見える化を図っています。

「子どもの頃から地域の活動やお祭りに参加している経験が、若い人や非農家の人も含めて地域全体での取り組みを可能にしている。」とのことでした。

今後、農業を中心とした地域活動や、農業者の所得向上の取り組みを中心に活動するという、力強い言葉が印象的でした。
(石川重彦委員)



▲実質化された人農地プラン等参考になる話を多くいただきました

市長へ意見書提出

11月1日に奥平貢市会長、野地太郎会長職務代理者、武藤一夫幹事長の3名で、農地利用の最適化の推進について三保恵一市長に意見書を提出しました。

への総合的な支援を進めること。

意見書の内容（一部抜粋）

5 農業振興全般

- ・各地域からの意見聴取を行うこと。
- ・福島大学食農学類と連携し、環境保全型農業の調査研究を行うこと。

1 担い手への農地集積

- ・人農地プラン作成に向けた取り組みを早急かつ積極的に行うこと。
- ・集落営農組織の立ち上げ、法人化の支援。

6 農業委員会の機能強化

- ・農業委員全員へのタブレット端末の導入。

2 担い手農家支援

- ・認定農業者育成事業、農業経営の安定対策に関する事業の予算の増額と補助率のアップ。

3 遊休農地対策及び農業施設整備等補助について

- ・中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金等の事業の継続。

4 農業後継者・新規就農者・定年帰農者支援

- ・農業支援センターを設置し、新規就農者や担い手



▲三保恵一市長へ意見書を提出しました
左から武藤幹事長、奥平会長、三保市長、野地職務代理

あだたら食農schoolfarm

持続可能な農業の実践

昨年、拠点となるクラブハウスを市内の永田地区に新設し、活動を本格化させた「あだたら食農SchoolFarm」。代表の根本敬さん、アグロエコロジーを提唱する福島大学食農学類の金子信博教授、地元農業委員の根本信康さんからお話を伺いました。

設立のきっかけは今から3年前、これからの農業の担い手として新規就農者を育成するとともに、農業の現状が消費者に正確に伝わっていないことへの危惧、広がる耕作放棄地の解消を目指し活動が始まりました。

永田地区の約50アールで、土を耕す「耕起区」、土を耕さない「不耕起区」に区分けをし、土壌成分や収量の比較はもとより、会員を招いての試食会等も行っています。

化学肥料や農薬による負荷を土壌環境に与えない有機農法や、除草剤を使わないかわりに、ライ麦の種を全面散布

し雑草の発生を抑えているそうです。「耕耘をせず、ミミズ等生物の働きで土壌の団粒構造を保って地力を維持するなど、労力の軽減を図るとともに、肥料代や農薬代を減らせることによる農業収入の確保といった、有機農法や不耕



▲手前が不耕起区、奥が耕起区に分かれている



▲耕さなくてももしっかり育ちます



▲耕起区、不耕起区で採れた野菜 食べ比べて味も比較します



▲左から根本信康委員、金子信博教授、根本敬代表 熱い思いを伺いました

起農法の利点を多くの人に知ってもらいたい。これからの農業の活性化を応援していきたい。」と熱く語られました。

現在約50人が会員登録し、金子教授と一緒に作物の生育状況に応じた作業を行っています。会員が友人や家族ぐるみで体験し、SNSで発信することにより、関心を持つ人が着実に増えているそうです。

魅力ある農業、安定と安心

を確保できる農業をいかに実現していくか、増えていく耕作放棄地をどうすればいいのか、私たち農業委員会も各団体と連携を図り、国の基である農地の健全化に寄与していきたいと思えます。

(安齋浩一委員)





▲適正に利用されているか調査します

農地利用状況調査・ 農地パトロールを実施

令和3年度も昨年に引き続き、事前に行った農地利用状況調査の結果をもとに10月、11月に二本松・安達・岩代・東和の各地域ごとに農地パトロールを実施致しました。

農地法第3条で許可した農地利用の状況並びに4条、5条で許可した農地転用許可の履行状況などの確認を行いました。

(遠藤康子委員)

農業者年金が加入しやすくなりました

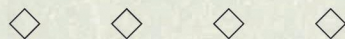
令和4年1月から、35歳未満で右記の一定の要件を満たす方は、月額1万円から加入できるようになりました。この機会に農業者年金に加入しませんか？

その1 農業者は長生きです

農業者年金に加入している65歳以上の農業者の平均余命は、男性が22年(87歳)、女性が27年(92歳)です。65歳の平均余命は、男性が85歳、女性が89歳ですので、農業者年金に加入している方のほうが延びているのが分かります。

その2 高齢農家の現金支出は約24万円

高齢農家世帯の現金支出は、令和元年ベースでの推計は月額約24万円。一方、国民年金の年金受給額は夫婦2人で月額約13万円(保険料を夫婦とも20歳から60歳まで40年間支払った場合)ですので、月額約10万円程度不足します。



そこで、老後の家計費の不足を解消するため国民年金の“上乘せ年金”に農業者年金が最適です。是非ご検討ください。

詳しくは農業委員、農地利用最適化推進委員または農業委員会事務局までお問い合わせください。

※加入には国民年金の付加年金への加入が必須です。

①～⑤のいずれにも該当しない方

- ① 認定農業者かつ青色申告者
- ② 認定就農者かつ青色申告者
- ③ ①又は②の者と家族経営協定を締結し経営に参画している配偶者又は直系卑属
- ④ 認定農業者又は青色申告者
- ⑤ ①又は②以外の農業を営む者の直系卑属で、その農業に常時従事する後継者

国が支える 積立方式で安心

老後の備えとして

農業者年金

次の3つの要件を満たす方であれば、どなたでも加入できます。

- 年間60日以上 農業従事
- 国民年金1号 被保険者
- 60才未満

農業者年金の特徴

- 積立方式で安心
- 加入・払込も自由
- 保険料は全部社会保険料免除
- 保険料はいつでも変更できる
- 農業の収入等には関係ない
- 残存年金 60歳までの死亡一時金あり

詳しくは [農業者年金 検索](http://www.nouner.go.jp) <http://www.nouner.go.jp> 独立行政法人農業者年金基金

農業者年金の加入については、農林水産省のホームページ上で最新の情報を提供しております。

農業委員会 TEL / JA TEL

TEL: 03-3502-3942 (本署担当) TEL: 03-3502-3199 (南*別荘)



農業委員会からのお知らせ



農地を売りたい、貸したい(農業経営規模縮小)方は農業委員会事務局までご相談ください。



農業委員会事務局 (市役所 2階)

☎ **55-5148**
FAX **22-8533**

◆現在あっせんを依頼されている売りたい農地◆

所在地	地目等	面積(アール)
茶園二丁目	畑1筆	2
舘野四丁目	田10筆	84
	畑2筆	10
舘野原	畑1筆	2

農地の売買や転用をお考えの方は農業委員会へ

農地を農地以外の地目にする場合や、売買などの権利の移動には農業委員会の許可が必要になります。事前に農業委員会事務局にご相談ください。

転用完了後や非農地証明による地目変更登記はお済みですか？

転用許可を受け農地を農地以外にした場合は、速やかに地目変更登記を行ってください。手続きが行われていないため、後々農業委員会事務局に相談に訪れるケースが増えています。

全国各地の今の話題が満載!

全国農業新聞を購読してみませんか？

農業に関する情報や地域の話や経営と暮らしに役立つ情報をお伝えします。

- 発行：毎週金曜日 (月4回発行)
- 購読料：月額700円 (送料込み)



※購読申込みは農業委員、農地利用最適化推進委員または農業委員会事務局

農業委員会への届出はお済みですか？

- 相続 (遺産分割・包括遺贈を含む)
- 法人の合併
- 時効取得等

により農地の権利を取得した場合は、相続等の届出をしてください。



会長	野地 太郎	副会長	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝
事務代理	野地 太郎	事務代理	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝
事務代理	野地 太郎	事務代理	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝
事務代理	野地 太郎	事務代理	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝
事務代理	野地 太郎	事務代理	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝
事務代理	野地 太郎	事務代理	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝
事務代理	野地 太郎	事務代理	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝
事務代理	野地 太郎	事務代理	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝
事務代理	野地 太郎	事務代理	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝
事務代理	野地 太郎	事務代理	奥平 貢市	委員	佐藤 孝	副委員長	松本 太	広報委員	佐藤 孝

編集後記

農業委員会だより「いぶき」を最後までお読みいただきありがとうございます。本年度は、令和3年度福島県下農業委員会大会において、第38回農業委員会情報誌コンクールにて、見事福島県農業会議会長最優秀賞、福島県知事賞と二つの賞を頂きました。先輩方の努力のたまものと感謝申し上げます。今後とも「いぶき」をご愛読頂きませうようお願い申し上げます。広報委員一同頑張っていきます。

(佐藤孝委員)